

神奈山・藤巻尾根山スキー報告

【山城】新潟：神奈山・藤巻尾根

【日程と天気】2016年2月24日（水）雪のち曇り・（1500m滑走開始地点：-10℃・風やや強し、林間は風弱し）

【メンバー】CL菊池・鈴木（忠）・井上（里）・会員外2名（Iさん、Nさん）

【行程】関温泉・国民休暇村駐車場－林道－東斜面に取り付く（790m）－藤巻山（945m）－藤巻尾根－神奈山北東尾根に乗り換える－1500m地点－滑走－往路－林道

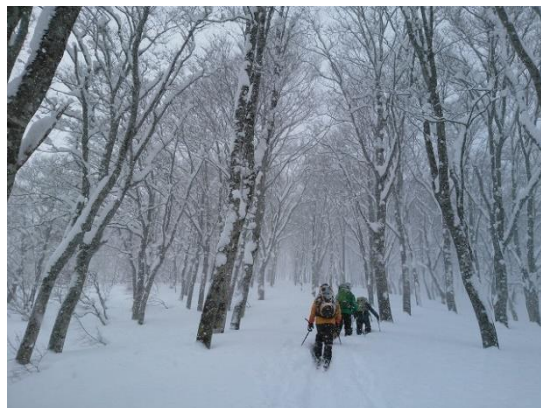


・パウダーツアーの賞味時期もあとわずかとなり、積雪不足のためツアーエリアの選択には苦勞する。関温泉スキー場は日本一の豪雪地帯であり、前日の積雪は 300 cmであった。冬型の降雪模様の当日、標高の高いエリアでは気象条件が厳しいため、標高が低く積雪量の多い神奈山・藤巻尾根を最終的に選択した。2 日間の降雪によりスキー場の積雪は 320 cm、降雪模様の中、国民休暇村（日帰り入浴することを告げて駐車許可を得た）の駐車場をスタートした。

・林道を進み間もなくの橋を渡る。数年前に初めて来たときには橋を渡ってすぐに、左側から急斜面を藤倉尾根に向かって登りあげたが、今回は林道を 500m (?) ほど進んで、東斜面から取り付いた。藪はそれほど煩くなく、滑走にもほぼ問題ないことを確認しほった。



・数日前の高温（雨）により下地は固いガリの弱層がある。その上の新雪は 30 cm ~ 50 cm、藤巻山を通過し、気持ちよいブナ林を交代しながらラッセル登行した。雪のブナ林は素晴らしくルンルン気分でハイクアップできた。降雪もそれほど強くなく、林間では風はほとんど感じない。ブナの雪の芸術に癒されながら標高を上げた。



冬型の降雪模様の日のBCツアーは標高の低いエリアに限る。鍋倉もよいが、それに勝るとも劣らないBCエリアとして、藤巻尾根を見直してしまった。台地に乗り上げる前のブ



ナ林は斜度が増し、新雪がかなり深くなってきた。オープン斜面に乗り上げるあたりは腰ラッセルの深さであるが、低温のため、ラッセルはそれほど重くなく、交代しながら進ん

だ。

・標高 1400m付近で広い緩斜面の台地に乗り移った。やはり風が強く一時風雪模様となったが、次第に風も弱くなってきて太陽が顔を覗かせた。頑張って標高約 1500mのダケカンバの木までハイクアップし、そこから滑走開始すべく、行動食休憩を取った。



・いよいよ滑走開始となったが、ややウインドバックされているが問題なく滑りやすいデープパウダーである。小気味よいテレターンを刻めた。他のメンバーも気持ちよくパウダーランを楽しんでいる。



シュプールと神奈山への稜線をバックに記念撮影をした。やや急なブナ林入ると、超デープパウダーである。雄叫びが自然に飛び出す、会心のツリーランである。深雪ツアー初体験のIさんはスキー板の幅が狭く、スキーが浮き上がらず難儀したが、斜度が緩んでくると徐々に慣れてきた。斜度がなくなる平坦地では一部下りラッセルであったが、概ねユックリズムでパウダーランを楽しめた。藤巻

山を通過し、斜度が増した林道への斜面も雪質がよく無難に下ることができた。

・標高差 700mほどの素晴らしい深雪ツアーを堪能し、休暇村の温泉で余韻に浸りながら疲れを癒した。

・やや遠路であるがこれだけ中身が濃く、満足できるパウダーツアーを堪能できるエリアである藤巻尾根を見直した一日であった。

